

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホームふくろうの森 1Fユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15		
自己評価作成日	平成30年9月23日	評価結果市町村受理日	平成30年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年10月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

山々に囲まれた自然豊かな環境で四季折々に楽しみ、心が和みゆったり過ごせる。チームでその都度話し合いながら利用者にとってより良いケアを提供できるよう心がけている。若い職員が多く、十分な職員配置がしてあり、一人ひとりの利用者とうつたり関わる事ができる。医療連携がとれ24時間対応可能である事、看護師が常勤である事で医療面での安心がある。業務においては職員の得意分野を活かす事ができ、子育て中の職員が働きやすいような配慮をしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域行事への参加やボランティアの協力、高校生の一年を通しての来訪があり、地域との良好な関係を築いている。今年度は町内にある3つのグループホームと協力し認知症カフェの定期開催を実施し、認知症への理解や予防に繋がるよう取り組んでいる。職員は利用者とうつたり関わるように心がけ、一人ひとりの思いを理解して支援するよう努めている。利用者の重度化があり特に身体拘束についても、職員一人ひとりの意識を高めるよう、研修会参加や勉強会を重ねて皆で話し合い支援に繋げている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が目につく所に掲示しており、意識付けとして、毎朝申し送り時に理念の復唱をして言葉として共有しているが、目指す所が共有できているかは個人差があり十分ではない。	朝礼で復唱して確認したり、毎月のユニット会議で話し合いをしている。一方のユニットでは日めくり重点目標を掲げ意識的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花・ボランティア・イベントなど、地域の行事には積極的に参加し交流の機会を持っている。	地域行事に積極的に参加し、ボランティアの協力がある。高校生が社会学習として毎週来訪して利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェなどで交流・相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	口頭だけでなく、写真で日頃の様子や事例を見てもらい、意見を頂いている。改善点は可能な限り対応している。	スライドで日常の様子を伝えたり、事例を紹介して情報交換している。避難訓練の振り返りで、車椅子の人の避難について意見があり、居室を1階に変えるなど意見を改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口となり連携をとっている。	運営推進会議や、日頃から情報交換をこまめに行い連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの利用者が穏やかに生活できるよう、身体拘束をしないよう努めている。施設内研修で学ぶ機会はあるが、職員の理解には差がある。	身体拘束の内容を理解することに努め参考本を購入したり、研修会、日々のミーティング、会議でヒヤリハットを含めて話し合い勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学ぶ機会はあるが、理解が十分ではなく、職員に差がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている利用者がおらず、学ぶ機会が少なく十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が時間をかけ、丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にアンケートを書いてもらい、意見、要望を伺っている。すぐに改善できる事は対応している。	面会時や電話、便りで様子を伝え、話を聞くよう努めている。意見や要望をまとめたノートを置いて閲覧できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し出があれば必要時早期対応されている。	日頃から声がけしたり、意見を聞くよう努め、働きやすい職場作りに努めている。ユニットのリーダーを通じても意見交換を行い反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のためにと熱い思いを持っておられ、子育て世代、介護世代でも働きやすい職場の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの希望を募ったりして外部研修の機会を持ち、また内部研修を計画的に実施してレベルアップを期待している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会は少ないが、認知症カフェや研修時の情報交換などから得た物をケアに取り入れたりする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から少しずつ話を伺いながら、まずは信頼関係の構築と考え、温かく安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時のあいさつ、様子の報告などを通し、まずは話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は職員に情報を提供し、今困っている事、必要としている支援の見極めの時間を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の割合が増えてくると生活の場である事が薄らいでしまいがちになる。時に見直し、声をかけ合うようにしているが、十分とは言えない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や生活上の事など、必要時連絡しながら共にケアにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブや地域のイベントへの参加、面会の方とゆっくり過ごせる配慮など心がけている。	自分で電話をしたり、希望する所への外出や外泊、墓参りをする人もある。地域の運動会に出かけ知人に再会した人もあり馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格、認知症の程度などからの関係を見ながら、席の配置、外出などのメンバーを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も病院や出先などで様子を見たり、ねぎらいの言葉をかける事がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の様子、表情、言動から本人の思いを察して、職員本位のケアになってないか検討するようにしているが、職員目線になりがちである。	日常の会話やゆっくり寄り添い話をする事で思いがわかった例もあり、個別での関わりを大切に思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前事業所、家族、関係者からの情報をまとめ、フェースシートを作成し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活の様子を記録しながら、一人ひとりの過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時のミーティングや月1回担当者を中心にチームでモニタリングを実施している。そこで本人、家族の思いや職員の意見を取り入れている。	毎月モニタリングをし計画の見直しをしている。毎月のユニット会議では利用者全員の状況や気づきを話し合い、情報を共有してプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方シートの他に、必要時個別記録に記入し、チームで情報を共有しているが、職員に差がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の職員で話し合い、状況により随時柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の方から情報を頂き、活用する事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の診療に加え、かかりつけ医とは24時間対応できるシステムを利用している。	希望のかかりつけ医を受診し、定期訪問診療や個別診療、外部への受診を支援している。外部への受診は家族の協力があり連携して取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付きや様子を記録に残している。職場内に看護師がおり、気になる事はすぐに相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報は紙面、口頭で交換し、必要時は電話で確認しながら行っている。カンファレンスへの参加など関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が入居時に伺い、記録に残している。必要時に方針の確認を話し合いながら進めている。	事業所の方針やできることを伝え、必要に応じて関係者と話し合い、確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署による救急法の指導を学ぶ機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会を中心に定期的な訓練、マニュアル作りを行っているが、全職員とは言えない。	定期訓練には地域の方の参加もあり今後の協力体制について話し合っている。今年は水害があり実際に2Fユニットに避難するという体験をした。課題も見つかり見直しを考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分かりやすい言葉かけを心がけているが、言葉遣いや声のボリュームなど職員によって差がある。	一人ひとりを尊重した対応や声かけを心がけているがさらに改善の必要を感じている。対応で気になることは話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう働きかけているが、業務の流れとして職員側の都合のケアになる事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の様子に応じて対応しているが十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室のタンスにご自分の衣類を収納している。好みの服に着替え楽しんでおられる利用者もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼や嚥下、その時々状態により形態を考えている。食器拭きは利用者の日課になっている。	自分でできる人は準備や片付けを行い習慣となっている人もいる。自分で摂取しやすいよう食事形態の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師により専門的に支援している。水分摂取量を記録し、一人ひとりの摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	かかりつけの歯科医と相談しながら、席で介助、洗面所でご自分で、必要な方は仕上げ磨きと一人ひとりの力に応じた口腔ケアを毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすよう、タイミングを探り、トイレへの誘導、介助を行っている。適切なパンツやパットも検討し使用している。	一人ひとりの状態に合わせた下着やパットを使用し、さりげない声がけをしてトイレでの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取、体操や腹部マッサージ、声かけなど個々に応じて取り組んでいるが、下剤を使用している事も少なくない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合になりがちだが、ゆっくり入浴が楽しめるよう計画的に行っている。本人に声をかけ、確認の上、無理強いせず入浴している。	利用者の希望や体調を確認しながら支援している。毎日入る人もいるが、概ね隔日に入浴するよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほぼ決まった時間にご自分で、介助で入室されている。安眠に向けて部屋の温度、明るさなども調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個別ファイルに入れ、必要に応じていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事はお願いし、ねぎらいや感謝を伝えるようにしている。ちょっとした時間での言葉かけ、会話を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過ごしやすい気候の時期は外気浴やドライブを楽しんでいるが十分とは言えない。家族との外出は年々減っている。	希望を聞き買い物やドライブに出かけたり、事業所周辺の散歩など外気に触れるよう支援している。家族の協力が出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて支援しているが、不穩につながるような場合はお預かりしている。お金を自分で使われる事はほぼなく、買い物支援は不十分である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会があればお礼の電話をしたり、手紙を書いたりされるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は清潔に安全に心がけ、空気の入替え、シーツ交換、汚れ物の片付けなど毎日部屋回りをしている。季節の花を生けたり、壁に飾り付けをしたりして居心地の良い空間作りに努めている。	花や利用者で作った作品を飾り、椅子やソファを各所に置き自由に過ごせる空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が気楽に過ごせるよう、席やソファの配置に配慮している。またその時々で対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切な写真や家族からのプレゼントなどを飾り、ゆっくり楽しめるようにしている。	利用者の思いで家族の写真や花を飾ったり、逆に何もないようにしたり、利用者の状況に合わせて畳やマットの設置などを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂、脱衣所、トイレなど、なるべくご自分で安全にできるよう、手すりや表示を付けるなど工夫している。		